



西田地方保育園
園長 細川 優子

安心・安全、そして豊かに

今年度、西田地方保育園では職員対象とした園の環境を考える園内研修を行っています。子どもにとって、どんな環境であることが望ましいのかを、2カ月に一度、外部講師であるおおぞら研究所の木村歩美先生を交えて、職員間で考え学ぶ機会をもっています。

今年度に入り、ロープ遊具による事故が報道され、私たちも他人事ではないと受け止めています。だからこそ、今、子ども達の最善の利益を尊重した安心・安全、そして豊かな環境を考えなければならないと思っています。

保育目標に「やってみたいをカタチに」と掲げた今年度。保育者である私たちは、子どもの「やってみたい！」という気持ちを叶えたいと強く思っています。なので、子ども達が目の前で「やってみたい！」という態度を示すと、できる限りそれを尊重し、できれば想いのままにさせてあげたいと感じているのですが、それにはそれができる環境（空間・時間・人との関わり）が必要となります。

そのような環境でないと、「危ないから」「ルールを守って！」などの注意の言葉や決まりが出てきてしまい、子どもも保育者もストレスを感じるようになります。

私たちは、大人の安心感が子どものやってみたいを支えることになることを学び、以下の3つの安心感を得るための具体的な手立てを探っています。

- 物的・空間程環境がもたらす安心感
- 人的環境（人間関係）がもたらす安心感
- 時間の確保から得る安心感

しかし、現実的に「事故」（失敗）はどうしても起きてしまいます。もちろん、できれば怪我はして欲しくないと思っています。もし怪我をしたとしても軽いものであって欲しい、大きな事故（怪我）にならないために、ちょっとの失敗から学ぶプロセスは大事にしたい...と願い、できる限りの知恵を絞りながら、講師指導のもと整備をすすめているところです。

そこで、今回はその研修で行った園庭の土づくり（土壌改良）と高台（タワー）づくりについてお知らせします。

【7月4日（火） 今年度3回目の園内研修日】

○転んでも痛くない、擦り傷にならない土づくり

今の園庭にある土（真砂）をふるいにかけて、細かな石やレンガのかけらなどを取り除いてサラサラの砂を作ります。そのふるったサラサラの土に腐葉土や燻炭、田んぼの泥と混ぜ合わせ園庭の砂を掘って除けたところに入れていきます。すると、ふわふわとした土が出来上がり、職員もその感触に驚き歓声が!!

130cmある高台もこのフワフワした土なら、「これなら安心!」と、心配ないことを実感。この地道な土づくりが大人の安心感、そして子どもの意欲へとつながっていくことを学びました。



○高台（タワー）づくり

工具の扱いにも慣れてきた職員。



その高台が完成したのは16時半すぎ。ずっと作業を横目で見ていたAクラスが、早速できたてホヤホヤのタワーに登ってみたいと飛びつきました。...が、思った以上に登れません。それは、先生たちも同じ。

「やってみよう！」 「登ってやる！」
という気持ちは、保育者にも沸き上がり、
これが保育者自身のワクワクに。



子ども達はその保育者の姿と気持ちを
間近で感じることで、相互の気持ちの
共有が生まれ、人とのつながりがより
深まります。

できない悔し涙や、登れた歓声。全身を使って踏ん張る姿。登ったはいいけど、降りれず躊躇する姿などなど。でも、誰も無理はしない。私はそんな子ども達や職員の姿から、次への課題と目標がみえたように思います。

園庭の植樹により木陰も増え、緑に囲まれてホッとできる場所で集う子ども達の姿が見られます。もっと、子どもも大人も安心して思い切り活動できる場があちらこちらにあったらいいなという願いで、挑戦できる環境や友だちと関わり合って創り出せる環境、発散できる環境、そして存分に試すことや変化を感じることが出来る園環境づくりを目指しています。

これからも子どもの気持ちに寄り添い、言葉を交わしながら環境整備をすすめていきたい思います。

園内研修講師： おおぞら研究所代表 保育環境研究家 木村 歩美 氏
ブログ <https://ameblo.jp/ozora-kimchan/>

